

春日大社 学びの会

「若宮御造替」と「神仏のあいだから」 2022

日時 2022年9月29日(木) 13:00開演

会場 よみうり大手町ホール(東京都千代田区大手町)

主催 春日大社、読売新聞社

協賛 岩谷産業株式会社、住友電気工業株式会社、ダイキン工業株式会社、関西電力株式会社、サントリーホールディングス株式会社
株式会社大丸松坂屋百貨店、日立造船株式会社、株式会社三菱UFJ銀行



撮影：桑原英文



撮影：桑原英文

基調講演

2

基調講演

1



春日大社宮司

花山院 弘匡

20年に1度の最重儀
「御造替」

春日大社には、四柱の神様がいらっしゃる。このうち、第三殿が天児屋根命(あめのこやねのみこと)様、第四殿がその奥様にあたる比売神(ひめがみ)様です。平安時代中期、1003年に第四殿の床に、夜、ふわふわとしたものが現れて、そこから神様が御誕生されたという記録が残っています。その後、長雨が続いて疫病がはやり、飢饉(ききん)となり、当時の上皇や関白、左大臣は、この若々しい春日の神様にお救いいただこうと考えました。そのためはしっかりと守りしなくてはならないということで、11



唐招提寺八十八世長老

西山 明彦

神道と仏教、車の両輪のいつく
助けられ前に進む

鑑真和上は、戒律と法華経を日本に伝えようしました。その約200年前に聖徳太子も法華経を広めようとしていました。実際に実現したのは、鑑真和上が亡くなったから半世紀後の最澄さんです。最澄は、鑑真和上と聖徳太子が成し遂げようとした法華経を広めるんだということと活動を始め、それは弟子たちに継承され、日本の鎌倉仏教として花開きました。その時の日本人の人の思いというのは、今、私たちを助けてくれる仏は誰なのか、今、直接私たちに手を差し伸べてくれるのは誰なのかということ

35年2月27日に若宮様の御殿が御創建されました。すると長雨はやみ、疫病や飢饉もすべて収まって、大変豊作になったということです。

春日大社には国宝が354点、重要文化財が1482点あります。その一つ、平安時代の「国宝 銅造 狛犬(こまいぬ)」は、藤原頼長が娘の多子が皇后になれるようにと鳥羽上皇より賜ったものです。頼長はすぐに若宮様へ御奉納して御祈願したところ、1か月もたたないうちに、多子は近衛天皇の皇后になられました。若宮様はそれほど大変お力の強い神様であります。

春日の信仰も日本の信仰の変遷にそい、唐の天子南面思想から、古代の神山信仰の復活、神仏習合、神仏分離と変化をしてきました。常に若宮様の強いお力に守っていただきたいという人々の思いから、今までずっと大切にされています。

この若宮様が、令和4年10月28日に美しくなった御殿へお戻りになります。大変めでたいのですが、私にとつては恐ろしくも感じます。約900年の間に何百万人の人がぬかずいて手を合わせて必死になってお祈りされた神様です。万が一にも失礼があつてはならないので怖いのです。神様のおそばで御一緒するため、1か月前から精進潔斎に入り、肉や

で、それはお地藏様であり、文殊様でした。神仏習合に基づく本地垂迹(ほんじすいじやく)の考え方で言うと、春日大社の第三殿の神様の本地仏はお地藏様であり、若宮様は文殊様です。鎌倉時代には、地藏信仰、文殊信仰が非常に強くなり、室町時代にはたくさんお地藏さんが造られました。それは純粹な地藏信仰プラス春日信仰だったんですね。

私の寺坊である伝香寺の春日地藏様は、衣が彫刻や彩色ではなく、脱がせると裸であることから別名「はだか地藏」とも呼ばれています。1228年、興福寺の83歳の尼さんが、体調を崩して春日大社に参籠できなくなり寝床で春日の神様にお会いしたいと言うので、その当時の一流の仏師に頼んで作ってもらったお地藏様です。像中には春日の神様が内蔵されていました。頭には、第一殿、第二殿の神様をあらわすお釈迦(しゃか)様とお薬師様。第三殿の神様の本地仏はお地藏様ですし、左足には第四殿の十一面観音様がありました。そして胸には法華経の経本です。仏法僧に分かれて入っていたわけです。

ですから、日本の歴史、特に宗教の歴史の中で、神道と仏教というのは共に車の車輪のごとく動いている

においの強いネギなどを断ちます。1週間前からは外界と断つて、春日大社の中で参籠し、御遷座の準備やお祈りを重ねます。そして当日、御飯殿から若宮様の御殿までの150メートルに、清浄な薦(こも)を敷き白幕を張り、神様の世界を作った中をさらにもう一つお囲みをして御遷座します。真つ暗で目の前は何にも見えませんが、神様と御一緒にいるとふわふわと暖かく感じ、スーッと神様に連れて行つていただくような、本当に不思議な感覚です。畏れを感じますが、新しい御殿にお戻りいただくというのは、神職としては最高に有り難いことであり、約900年続く若宮御造替は20年に1度の本当に大切な御奉仕なのです。

プロフィール

昭和37年、佐賀県生まれ。國學院大學卒業後、県立奈良高校教諭等を務め、平成20年4月に春日大社宮司に就任。花山院家は、藤原道長の孫で関白師実の次男、左大臣家忠を祖とし、太政大臣にも就く家で、花山院宮司は第33代当主にあたる。春日大社宮司としては明治以降で11代目。現在、公益社団法人南都楽所会長、奈良の鹿愛護会名誉会長、帝塚山大学特別客員教授なども務める。

プロフィール

昭和26年、三重県名張市生まれ。同45年に伝香寺住職・徳田明本師の弟子となる。同57年龍谷大学大学院修士課程卒業。同59年学校法人伝香寺学園創設(初代理事長)。同64年伝香寺住職及び、いさがわ幼稚園長拝命。平成7年より唐招提寺執事、執事長、宗務長を歴任。同28年4月に律宗管長唐招提寺八十八世長老を拝命(～令和3年3月)。平成23年には藍綬褒章を受章。

んです。そしてまた人々も両方の車輪に助けられて前に進むことができます。どちらかが強くなつて道がそれてしまうようなことが歴史上に多々あったように思います。それは皆様方の心がけ、思い次第ですので、ぜひ片一方の車輪を外すのではなしに、両方の車輪を共に心に据えてお参りをしてもらえればと思います。

お釈迦様が誕生した時、インドの神様が天上を舞って喜んだという物語も伝わっています。もう全ては神、仏、共にあったということですね。これからぜひ、そのことを心に置いて、皆さんのお孫さん、ひ孫さんに伝えてもらったらありがたいですし、その気持ちでぜひ奈良に来ていただきたいと思います。

宗教戦争が起こらず、共に神仏習合へと向かう歴史

日本最大の芸能の祭典、 春日若宮おん祭

花山院 古来、御蓋（みかさ）山、春日山は平城京を守る神様のおられる神山でした。人々は神様に守られ、自然の中で生かされているという信仰であります。平安時代後期から、上皇・関白による神仏習合により、春日は浄土であり、仏様の世界でもあるという信仰が生まれしました。春日大社第一殿の武甕槌命（たけみかづちのみこと）様は釈迦如来、第二殿の経津主命（ふつぬしのみこと）様は薬師如来、第三殿の天児屋根命（あめのこやねのみこと）様は地藏菩薩（ぼさつ）、第四殿の比売神（ひめがみ）様は十二面観音、若宮様は文殊菩薩です。神と仏が同じであるというのが、春日浄土の世界です。

平安時代に始まり、現在も行われている若宮様の最大のお祭りが春日若宮おん祭です。若宮様が旅行に行かれて、十分に芸能を楽しまれるという日本最大の芸能祭典です。日本最古の巫女（みこ）の神楽や、シルクロードを通じて伝わってきた舞楽が奉納されます。中でも、平安時代の終わりから舞われてきた猿楽は、室町時代に大和猿楽の観阿弥・世阿弥が能として成立させて、江戸時代初期には能舞台が造られました。このため能舞台に描かれている松の木は、春日の参道にある影向（ようこう）の松です。また、お旅所で舞楽などの芸能を芝の上に居て舞い、見たことから「芝居」という言葉となりました。若宮様は、日本の芸能史の中でも大きな役目を果たしています。

西山 神様が私たちの世界に下りてきてくれることに、人々は非常に身近さを感じたんでしょうね。そういう神様事で楽しみの時間を設け、神に感謝することですね。一方で、悲惨な時代であったのも事実です。人々がそれを心でどう消化したかということには、仏教が深く関わっています。人が亡くなると、過去・現在・未来の13の仏様が関わってくれるというストーリーを作り上げました。命日にはまずお不動さんが現れて、これから順番に仏様の勉強をしていきます。1週間オリエンテーションをしてくれます。2週目に過去の仏様、お釈迦さんのお話を聞き、3週目、4週目に普賢さんと文殊さんに知恵と慈悲でわかりやすく教えてもらいます。三十五日には、現在の勉強をお地藏さんにお話を聞き、7週目に過去・現在・未来の三世の仏さんのお話を聞いて、いよいよ三途（さんず）の川を飛び越えます。その時に力を与えてくれるのが、薬師如来です。人々の願いを最後にかねてくれるので、勉強の成果が良からうが悪からうが、みんな浄土へ送ってくれます。ですから、四十九日の法要を開かないと、薬師さんの話が聞けないので大変なことになるんです。



春日宮曼荼羅 鎌倉時代 13世紀 奈良・南市町自治会（部分）

す。昔の人はそれでも心配だったので、春日浄土にも頼りました。より安楽に、苦しまずに浄土の世界に行くために、神様のお力にもすがりたいと考えたのでしょう。

今の時代の神仏習合を どのように皆さんに伝えるか

花山院 私たちにとって、神仏習合は普通のことですが、一般の方にはなかなか理解しづらいかもしれません。私自身の話をする、朝起きると潔斎をして、神棚を拝み、仏壇で三十番神仏とい

「春日大社 学びの会」

対談

西山長老 花山院宮司

うその日の神仏の御名前を奏上し、平安朝以来の先祖の命日の戒名を読み上げます。そして春日大社へ行くこと大祓詞（おおはらえことば）を奏上して、国家国民のこと、震災からの復興や新型コロナウイルス退散を含めてお祈りし、二日のお勤めが始まります。毎朝が神仏習合が始まります。

歴史的には、538年、日本に仏教が伝わってきたときは、神様として伝わってきました。日本の八百万（やおよろず）の神々の中に新しく一人、お釈迦様という神様が来られたと。なので日本最初の出家者は女性で、巫女という扱いでした。このため日本では宗教戦争が起こらず、共に神仏習合に向かうような歴史がスタートしたんです。

西山 仏教が日本に入ってきたとき、僧侶の仕事は宮司と同じように、人々の悩みを聞いて神様に伝えるメッセンジャーだったと聞いたことがあります。地元の信仰形態を破壊せず、共生していくことが行われていたんですね。時代によってさまざまな信仰の形態がありますが、私たちは、今の時代の神仏習合をどのように具現的に皆さんに伝えるかという努力をしています。私の寺坊で年に1回お地藏さんのお着替えをするときに、皆さんに見てもらって春日の神様のお話をするのもそうですし、幼稚園の運営を通じた人間教育もその一つです。神仏習合を糧とした教育の現場で、一般家庭で神棚と仏壇を祀（まつ）っていた150年前の

姿に戻ることを願っています。

多くの人に寛容な 平和で本当に大切な信仰

花山院 今も神棚と仏壇がある家は神仏習合ですが、江戸時代の終わりまでの約1000年間、神は仏であり、仏は神であると、神仏御力を合わせ共に有り難く尊びました。宗教戦争がなく、多くの人々に寛容である非常に平和な信仰が、日本人の本当に大切にしていた信仰です。10月28日に若宮様が新しい御殿に御遷座されるのに合わせて、芸能の奉納や万燈籠をはじめとしたさまざまな奉祝行事が行われます。美しくなった若宮様の御殿に、ぜひお参りください。



撮影：桑原英文

